vinetur

ボローニャの独立系ワイン生産者見本市、来場者数2万9000人で2025年を上回る

3日間のイベントには生産者1,005社が出展し、8,000を超える銘柄を紹介。会場全体で進んだ直接購入が商況を押し上げたと主催者は発表した。

2026年11月24日（火）



第15回Mercato dei Vini dei Vignaioli Indipendentiは、来場者数2万9000人を記録してボローニャで閉幕した。主催者のBolognaFiereと、イタリア独立系ワイン生産者連盟FIVIが11月24日火曜日に発表した数字によると、2025年の開催を上回る来場者数となった。

ボローニャの展示会場で3日間にわたり開催されたこの見本市には、FIVIに加盟する生産者1,005社が第29・30パビリオンに集まり、8,000を超えるワイン銘柄を試飲・販売したと主催者は発表した。出展者の商況は前年より好調だったという。ただし、前年比や売上高は公表されていない。

このイベントは、自らブドウを栽培し、自社でワインを瓶詰めする小規模・中規模ワイナリーにとっ

て、イタリア有数の見本市となっている。今年はイタリア全州の生産者に加え、欧州独立系ワイン生産者連盟CEVIを通じて、ブルガリア、チェコ、スロベニアの独立系ワイン生産者も参加した。また、イタリア独立系オリーブ生産者連盟FIOIに加盟するオリーブオイル生産者29社も出展した。

主催者によると、来場者はワインを試飲するだけでなく、生産者から直接購入することを目的とする、知識豊富な消費者へと移りつつある。直接購入を重視する傾向は会場の随所に見られた。BolognaFiereによると、購入したボトルを駐車場まで運ぶため、買い物客向けにカートやキャリーカートを1,500台用意したほか、会場内では自宅配送サービスも提供した。

ワイン生産者でFIVI会長のRita Babiniは、このイベントの意義は単なる来場者数にとどまらないと述べた。声明で、見本市は生産者、ワイン愛好家、業界関係者にとって毎年欠かせない交流の場であり、来場者の質の高さと熱意が魅力の中心にあると語った。

BolognaFiereのGianpiero Calzolari会長は、このイベントを、地域のアイデンティティーと製品の品質を基盤とする農業ビジネスモデルの強さを示すものと位置づけた。また近年、会場外のプログラムを通じて、ボローニャ市との結びつきが強まり、イベント戦略における同市の存在感が高まっていると指摘した。

見本市会場の外にも広がるFuori Mercatoのプログラムには、こうした市内各地での展開が表れていた。主催者によると、11月20日と21日には、ボローニャ市内および周辺県の60を超える施設が関連イベントに参加した。その一つであるFUORI DI FIVIには、今年初めてボローニャのMercato Albaniが加わった。会場外のプログラムでは、Confcommercio Ascom Bolognaが飲食業界向けに企画した「白夜」イベントも開催。参加レストランは、見本市に訪れた生産者や来場者のため、深夜まで厨房を開けた。

展示会場内では、試飲会やトークイベントを盛り込んだ充実したプログラムが来場者を集めたと、主催者は説明した。FIVIのマスタークラスは4講座すべてが満席となった。今年のテーマは「Think Pink」で、希望を育むという考え方を軸にワインと生産者を取り上げた。講座では、ヴァルダルノ・ディ・ソプラの有機栽培のブドウ畑のほか、ヴェネト州、ガルダ湖周辺、アブルッツォ州、プーリア州、カラブリア州の5地域のロゼワインを紹介した。また、サリーナ島、リーパリ島、ヴルカーノ島の火山島のブドウ畑や、女性生産者と社会協同組合が連携し、障害のある若者が生産工程の全段階に携わるヴァルポリチェッラのプロジェクトも取り上げた。

主催者によると、オリーブオイルのエリアにも多くの来場者が集まった。FIOI Oil Barでは、専門テイスターが参加農園29軒のオイルを案内し、高品質なエキストラバージンオリーブオイルと、品質の低いものや欠陥のあるものを見分ける方法を解説した。同エリアではIl Forno di Calzolariが用意したパンの試食もあり、辛味、苦味、果実味の特徴に合わせて選んだオイルとともに提供された。

来場者でにぎわったもう一つのエリアは、州の農業部門が運営するエミリア＝ロマーニャ州のブースだった。同ブースでは、シェフのCarla Brigliadoriによるガイド付き試食を実施し、保護原産地呼称の認定を受けた州産品を紹介。FIVIの生産者が選んだ地元ワインと組み合わせ、Enoteca Regionale Emilia Romagnaがワインを紹介した。取り上げられたのは、モデナの伝統的バルサミコ酢、Parmigiano Reggiano、Culatello di Zibello、Piadina Romagnola、Coppa di Parma、Squacquerone di Romagnaなど。

主催者によると、会場内の飲食エリアはイベント期間を通じてにぎわい、第26パビリオンのフードエリア、ギャラリーのコーヒーバーとジェラートスタンド、第28パビリオンのフルサービスレストランにも多くの利用者があった。こうした活況は、業界向けイベントであると同時に大規模な一般向け市場でもある見本市の二つの役割を反映していた。来場者は、企画された試飲会、生産者からの直接購入、料理とのペアリングを行き来した。

見本市の閉幕にあたり、恒例の賞も二つ授与された。「Vignaiolo come noi」賞は、食品ロスの削減に取り組む社会振興団体RECUPに贈られた。「Leonildo Pieropan」賞は、技術革新と業界への長年の影響力でイタリアのワイン業界に広く知られるトレンティーノの生産者Mario Pojerに授与された。FIVIによると、前者はワイン生産者以外で、品質、独創性、職人技などの価値を体現する個人や団体を顕彰する賞。後者は、連盟創設者の一人の功績をたたえるものだ。

最終日には、ワイン業界の新たな調査プロジェクトも発表された。FIVIは、イタリアぶどう・ワインアカデミーと共同で開発した、垂直統合型ワイン事業の動向を調べる観測機関FIVI Labを紹介した。主催者によると、このプロジェクトはワイン生産者が直面する現在の課題に取り組むとともに、政策や市場をめぐる議論で自らの存在感が十分に反映されていないと訴える業界の一部に、分析手段を充実させることを目的としている。

Mercato dei Vini dei Vignaioli Indipendentiは、FIVIが主催し、BolognaFiereがエミリア＝ロマーニャ州政府、ボローニャ市、Confcommercio Ascom Bolognaの支援を受けて運営するイベント。主催者によると、次回は2027年に開催される予定だ。